

江戸時代から続く花街の面影を宿す石畳の路地と、現代の洗練された空間が共存する上質な大人の街・神楽坂。その街に今秋、新たなランドマークとなる商業施設〈音生 神楽坂（NEO KAGURAZAKA）〉が誕生した。地下一階・地上四階建てのビルで、寿司、イタリアン、和食、ステーキ、バーなど、本物志向の多彩な飲食店十三店舗が入居し、各店舗は内装工事の完了次第、順次オープンする予定だ。その一階エントランスからエレベーターまでの壁一面を彩る力強く美しい庵治石（香川県産花崗岩）が、街ゆく人々の目を引いている。ビルのオーナーは神楽坂で不動産業（株）ニューハウス）を営む萩原秀治さん。「仕事柄いろいろな建物を見て、素材にも触れてきましたが、庵治石の美しさと存在感に惹かれてしまいました」と話す。

萩原さんと庵治石との出会いは、（株）彩石・大西正也社長との出会いから生まれた。萩原さんはビル建設中の二〇二三年九月、大西社長の仲介で東京・小石川の傳通院墓地に墓所を建立し、その石塔にも庵治石を採用しているが、二人の出会いは大西社長がグループ会社で営む高級和



神楽坂に誕生した商業施設〈音生 神楽坂〉オーナーの萩原秀治さん（左）と、（株）彩石の大西正也社長。萩原さんは建墓も大西社長に託し、どちらも庵治石を使用。「自然が生み出した石のダイナミックな表情が魅力」という

（株）彩石の〈国産墓石物語〉
その2

「庵治石が結んだ 傳通院での建墓と 〈音生 神楽坂〉ビル」

研磨と割肌 ― 表情の違う庵治石の魅力を満喫！

（株）彩石
本社：東京都文京区小石川3-3-7
tel.03-6801-8902
<https://saiseki.net/>



食店（神楽坂 光石）の出店（東京・外苑前から移転して二〇一九年オープン／九月号既報）に際し、萩原さんがテナントビルを紹介したことに遡る。その後しばらくは交流がなかったが、二三年春に改めて〈神楽坂 光石〉を訪ねた萩原さんを大西社長が案内してから懇意になり、この庵治石をめぐる物語は急展開を見せる。萩原さんが〈神楽坂 光石〉の内装に使われている庵治石と大谷石（栃木県産凝灰岩）の美しさに感銘を受け、また大西社長が寺院専門の（株）彩石を営み、特に傳通院墓地での建墓と管理などを一手に担っていることを知ったからだ。

「ちょうど、都立青山霊園にある妻の実家のお墓を私が承継することになり、すでに十柱もお骨を納めているので建て替えようと考えていたところでした。すぐに大西社長にお墓の改修工事を相談し、もう契約しようと思っていた矢先に、妻がふと、『傳通院に新しいお墓を建てて、そこに移れないかな』と。実は傳通院は自宅の近所で、私たち夫婦の散歩コースもあり、以前から『こんなお寺にお墓を持てたらいいね』と話していたんです。これも何かの縁



右：東京・神楽坂に誕生した〈音生 神楽坂〉の1階エントランスを彩る庵治石割肌の表情（調達・施工：（株）彩石）
左：同社が傳通院墓地に建立した萩原家墓所の庵治石細目の墓石



右:奥様の実家の墓所の閉眼法要。左:萩原さん自身のお墓も建てられた萩原一族の墓所(写真は萩原秀治さん提供)

石でつくることになり、萩原さんの「和型のシンプルなお墓がいい」との希望に応じていくつかのデザインを提案して決定。加工は庵治石、真壁小目石とも各産地で行なった。同時に(株)彩石では前述のとおり、青山霊園から傳通院への改葬手続きも代行し、同年八月、まずは青山霊園の墓所の閉眼法要が執り行なわれ、同年九月、新たに傳通院墓地に建立されたお墓の開眼法要

と納骨式が滞りなく執り行なわれた。

「大西社長のアドバイスのもと、義父のお骨は骨壺のまま納め、その他のご先祖は三十三回忌を経ていたので骨壺から出して埋葬しました。私が故郷のお墓から持ってきた土も一緒に納めたので、そこで改めて両家がつながり、その血縁を受けた子や孫にも自然にお墓を託すことができます。いいお墓を建てることができたと感じています」と萩原さん。そして「この出会いがあったからこそ、商業ビル〈音生 神楽坂〉にも庵治石と大谷石を使い、上質な空間をつくることができました。ただ、設計どおりに完成した壁を後からやりかえたので、関係者みんなに猛反対されましたけど」と苦笑いする。

〈音生 神楽坂〉の建設プロジェクトは、神楽坂通り商店会の理事も務める萩原さんの「神楽坂の街をもっと活性化させたい」との思いから約八年前にスタートした。当初から魅力的なテナント（飲食店）を誘致するために不可欠な洗練された空間設計を追求し、三度の設計変更とコロナ禍を経て、二三年一月に着工。傳通院でのお墓づくりと同じ年から工事が着々と進めら



傳通院墓地の萩原家墓所。石塔は庵治石細目、外柵は真壁小目石。都立青山霊園にあった萩原さんの奥様の実家のお墓（お骨）も改葬した。傳通院は萩原さんの自宅と娘さん家族の住まいからも近く、「妻ともよく傳通院にお墓がほしいと話していた」と萩原さんという



で、大西社長にその旨を相談すると、傳通院の貫主様にご紹介いただき、青山霊園からの改葬手続きなども代行してくださることになり、とてもスムーズに改葬と建墓が進みました」

萩原さんはそう振り返る。さらにいうと、萩原さんにはお墓に関してもう一つ、長年抱えていた悩みがあった。それは自身の故郷にある、自身の名を刻んだお墓の存在だった。

「私は群馬県の出身で、故郷には一族の墓所があり、私の名前を彫刻した墓石もすでに父が建立していました。しかし私は次男であり、東京に長く暮らして家庭と仕事もありますから、そのお墓をどうしようかとずっと気がかりだったんです。もちろんお骨は入っていませんが、そのことも含めて大西社長に相談すると、『故郷のお墓の土を新しいお墓に納めましょう』とアドバイスしてくださいました」

萩原さんが傳通院墓地に新たな墓所を持ったのは二三年六月のこと。大西社長は春に〈神楽坂 光石〉で萩原さんが感銘を受けていた庵治石を提案し、墓石本体への採用が決まった。また外柵も大西社長の提案で茨城県産の真壁小目

彩石グループ

THE ZEN 倶楽部

Benefit one

Dai-ichi Life Group

福利厚生サービス最大手・(株)ベネフィット・ワンと提携

檀家、信徒募集に繋がる

宗教法人の為の福利厚生

霊園や樹木葬など、寺社の基軸サービスをご紹介します！

ベネフィットステーション

1100万人以上の会員向けPR

代理店を募集中です！

03-6801-8820

【運営元】〒112-0002 東京都文京区小石川 3-3-7 THE ZEN 株式会社 ((株)彩石グループ) https://the-zen.jp info@the-zen.jp

お檀家 信徒様

職員様

霊園・樹木葬 契約者様

座禅・御詠歌の 会員様

寺院の関係者

介護・ケア施設・職員様

保育園・幼稚園・職員様

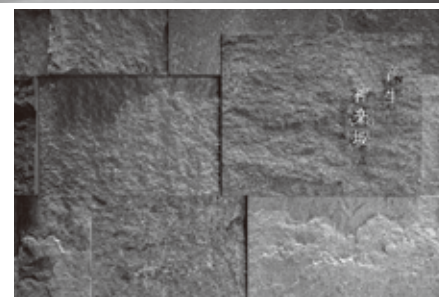
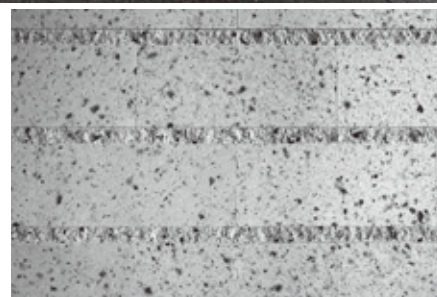
73-「石材」12.15/2025

12.15/2025「石材」-72



〈音生 神楽坂〉2階同スペースの大谷石の壁（約17㎡）。こちらもガラス張りから全面石張りに変更し、切削面とボーダーを組み合わせたデザインは萩原さんの希望
すでに開店している飲食店もあるので、ぜひ来店を！

〈音生 神楽坂〉
東京都新宿区神楽坂6丁目21
地下鉄東西線・神楽坂駅より徒歩3分



〈音生 神楽坂〉1階エントランスからエレベーターまでの庵治石割肌の壁（約17㎡）。当初はガラス張りで施工されたものを全面石張りに変更した。ゴツゴツと表情豊かな庵治石割肌を組み合わせ、力強く美しい壁をつくり上げた。床に敷設されたダークグレーの石と天井の木ともよく合う（撮影時の床は養生シートだが、左写真＝2階の床・天井と同じ）



他に類のない特別な空間となり、来訪者の心にも強く響くと思います」と萩原さん。

庵治石も大谷石も、萩原さんの要望に沿って（株）彩石が調達し、施工も手がけた。庵治石の壁はサビ肌、カサネ肌など豊かな表情の割肌を生かし、八〇センチ前後の不揃いな厚みの石をゴツゴツと組み合わせている。一方、大谷石の壁は萩原さんが望んだ意匠を取り入れ、しとやかな地肌を生かした切削面に粗野なボーダーを配して構成した。二つの石壁とも、もともと床に敷設されているシックなダークグレーの花崗岩（外材）や、天然の木目が美しい天井とも見事にマッチし、伝統とモダンとが融合する街・神楽坂の新たなランドマークにふさわしい唯一無二の空間が創出された。

「今回初めて庵治石と大谷石を使いましたが、石の魅力は、自然が生み出したダイナミックな表情に尽きると思います。すでに神楽坂での次のプロジェクトも構想していて、今回の経験をj経て、そこでも石は欠かせない存在と考えています」と萩原さん。これからも（株）彩石・大西社長と紡ぐであろう石の物語が楽しみだ。

れていたわけだが、萩原さんが〈神楽坂 光石〉で庵治石と大谷石を見たのは同年三月頃のこと。結果的に一階エントランスからエレベーターまでの壁に庵治石を、二階の同スペースの壁に大谷石を取り付けたが、どちらの壁も着工時の設計ではガラス張りであり、実際にその施工が完了した後に全面石張りに変更したので、追加費用が膨らむなど、「みんなに猛反対された」というのも領けるところ。

しかし、それほどまでに萩原さんを突き動かしたのは一体何だったのか。

「当初は明るく、開放感のある空間を意識していましたが、実際にガラス張りにすると、見え過ぎてしまうのが気になったんです。そこで思い浮かべたのが、お墓に使用した庵治石の美しさと、また〈神楽坂 光石〉で見た庵治石の重厚な力強さ、それとは対照的な大谷石のしつとりとした美しさでした。特に一階は建物の顔になりますから、力強く印象的な割肌の庵治石を採用し、二階には素朴で柔和な表情の大谷石を採用することに決めました。ガラス張り完了後の変更は思い切った決断でしたが、石により